

令和 5 年産大崎地域の 大豆作技術情報(第 5 号)

令和 5 年 10 月 13 日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL : 0229-91-0726 FAX : 0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～今後の管理のポイント～

- ・ 雑草や青立ち株の抜き取りを実施し、汚粒発生の防止に努めましょう。
- ・ 適期収穫を心がけ、刈り遅れにならないよう注意しましょう。
- ・ 品質低下を防ぐために、乾燥時の温度管理を徹底しましょう。

1 気象経過

- ・ 気温は、期間を通して平年より高く推移しました。特に 8 月は、8 月 12 日を除いて、最高気温が 30℃を超えており、猛暑となりました。
- ・ 日照時間は、8 月の合計が 222 時間(平年差+80 時間)と多照傾向で推移していましたが、9 月以降は、多照と寡照の期間を繰り返して推移しました。
- ・ 降水量は、定期的にまとまった降雨があったものの、全体としては少雨傾向で推移しました。

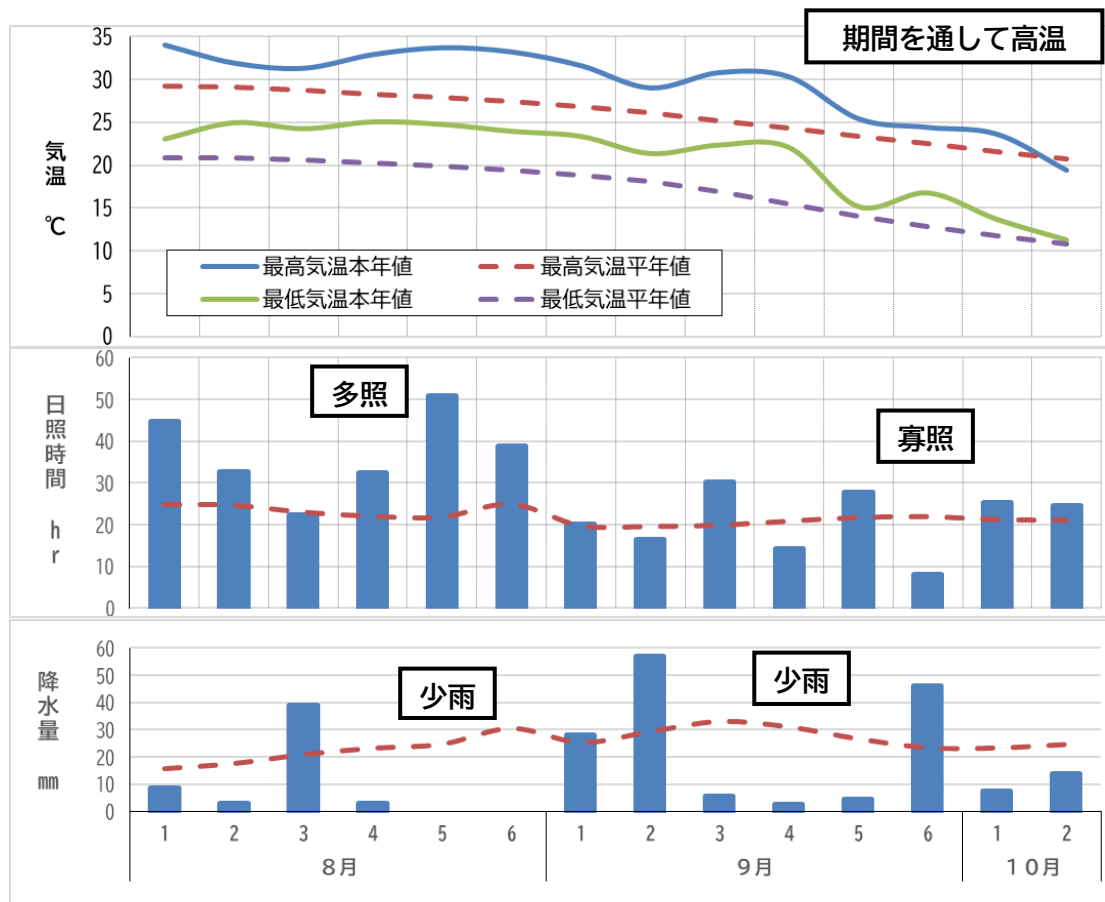


図 1 8 月第 1 半句～10 月第 2 半句までの気象 (古川アメダス)
※実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

2 生育概況

- ・生育量はほ場による差が大きく、「古川タンレイ」は平年並み～平年を上回る生育量となりましたが、他は概ね平年並み～平年を下回る生育量となりました。
- ・「すずみのり」は、小野田地区では「タチナガハ」並みの生育量、中新田地区では生育過剰となっており、蔓化が見られました。
- ・中生品種「タンレイ」では落葉期を迎えており、中生の晩の「タチナガハ」や「きぬさやか」では黄葉期～落葉期となっています。
- ・雑草は、タデ類やアメリカセンダングサ、帰化アサガオ類の残草が一部で見られました。特に、帰化アサガオ類が発生しているほ場では、つるが大豆に絡まり、倒伏に繋がっています。

表1 生育調査結果

地区名 品種	区分	播種日	開花期	9月1日		
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
古川 タンレイ	本年	5月27日	7月20日	70.4	15.0	3.1
	平年比	1日早い	8日早い	114%	101%	96%
古川 ミヤギシロメ	本年	6月2日	7月31日	73.7	16.3	4.1
	平年比	1日早い	5日早い	79%	94%	95%
三本木 きぬさやか	本年	6月7日	7月30日	44.2	12.0	4.3
	平年比	2日早い	4日早い	77%	90%	126%
小野田 タチナガハ	本年	6月8日	7月26日	46.1	12.3	2.6
	平年比	2日早い	7日早い	73%	88%	88%
小野田 すずみのり	本年	6月8日	7月25日	46.0	11.3	3.3
中新田 すずみのり	本年	5月30日	7月22日	86.0	14.8	4.1

※1 平年比は、前5か年（平成30年～令和4年）の平均値との比較

※2 「小野田すずみのり」、「中新田すずみのり」は令和5年より調査開始



写真1 古川タンレイ



写真2 古川ミヤギシロメ

3 今後の栽培管理のポイント

(1) ほ場の確認

○排水対策

- ・ほ場表面に水が停滞しないように、排水口や暗きよの点検整備などの排水対策を行いましょう。

○雑草・青立ち株の抜き取り

- ・収穫時に水分の高い雑草が残っていると、汚粒の原因となります。雑草は種子が落ちる前に早めの手取り除草を行いましょう。特に、イヌホオズキ等の高水分の果実をつけた雑草は、茎葉が枯れても果実が汚粒の原因になるので収穫前に抜き取りましょう。
- ・青立ち株（生育が不揃いで茎葉が青く、落葉していない株）は茎水分が高く、収穫時に子実を汚損する恐れがあるので、収穫前に抜き取りましょう。

汚粒の原因となる雑草



タデ類
(オオイヌタデ)



アメリカセンダングサ



ホソアオゲイトウ



イヌホオズキ

収穫後の難防除雑草対策について

- 帰化アサガオ類やアレチウリなどの難防除雑草が多発したほ場では、翌年も多発が予想されます。耕起前の非選択性除草剤散布を検討しましょう。
- 特にアレチウリ（特定外来生物）は、大豆ほ場での発生が増加しています。周辺での発生がないか注意してください。



帰化アサガオ類



アレチウリ

(2) 適期収穫の実施

- 収穫が遅れると品質低下等に繋がるので、適期の収穫を行いましょう。
- 収穫適期は、成熟期の 10～20 日後頃とされていますが、天候とほ場状況を考慮しながら行いましょう。
- 高水分で刈取しないように、収穫前には子実水分を測定しましょう。

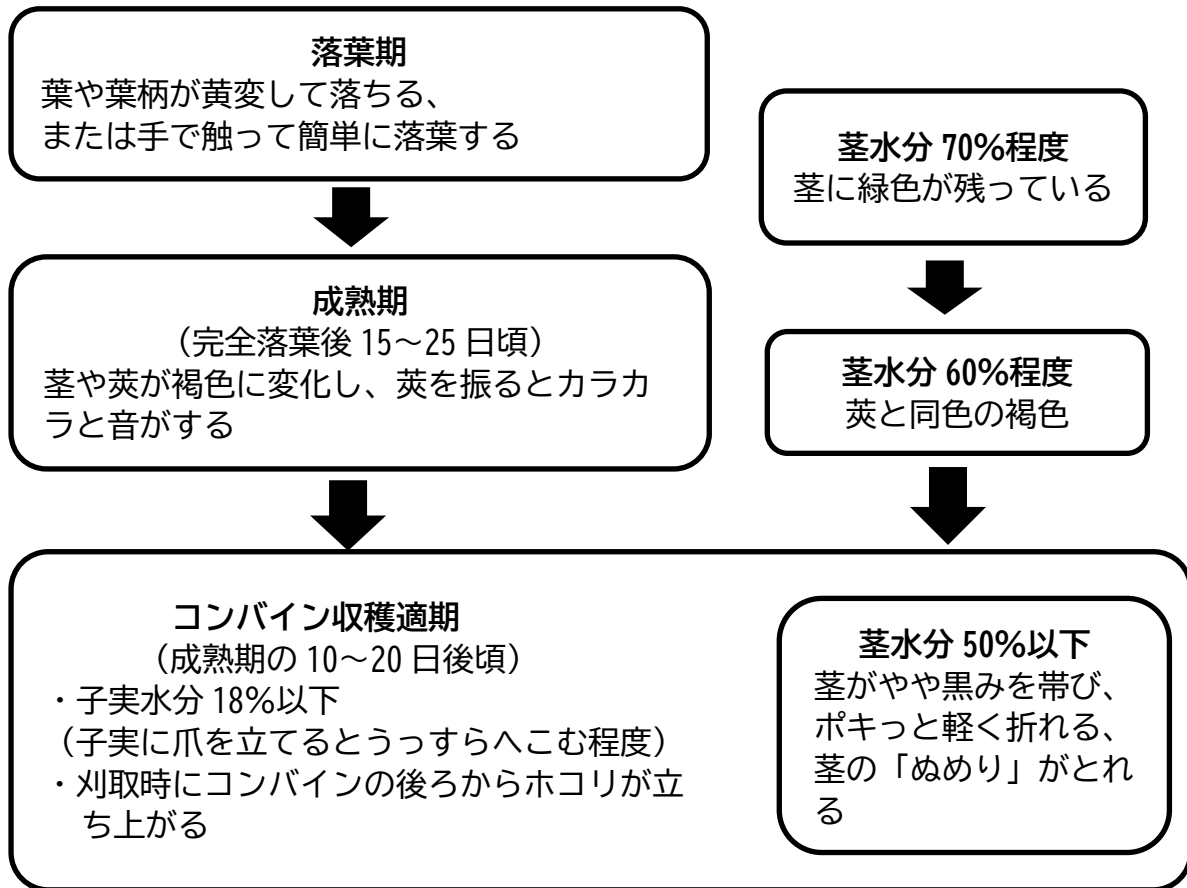


図2 大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期

コンバイン収穫時の留意点

- ・子実水分が高いと「つぶれ豆」が発生するため、子実水分は 18%以下
- ・莖水分が高いと「汚粒」が発生するため、成熟期以降の莖水分 50%以下
- ・刈取時刻の目安は、前日・当日とも晴天の場合、午前 10 時～午後 4 時頃
※前日が雨の場合は、作業を控えましょう。
- ・汚粒発生の大いな要因は「土の掻き込み」です。刈刃が土を掻き込まないように刈り取りの高さは 10 cm 程度としましょう。
- ・難防除雑草が繁茂したほ場は、コンバインに種子が付着して、他のほ場に移動させてしまう恐れがあるので、最後に収穫するようにしましょう。

(3) 乾燥作業

- 大豆は粒が大きいいため、外側は水分が抜けやすく、内側の水分は外側に移動しにくいという特徴があります。急激な乾燥は、しわや裂皮など、被害粒の発生原因となりますので、品質低下を防ぐためにも温度管理に注意しましょう。
- ほ場によって子実水分のバラツキが大きい場合があるので、こまめに水分測定を行いましょう。

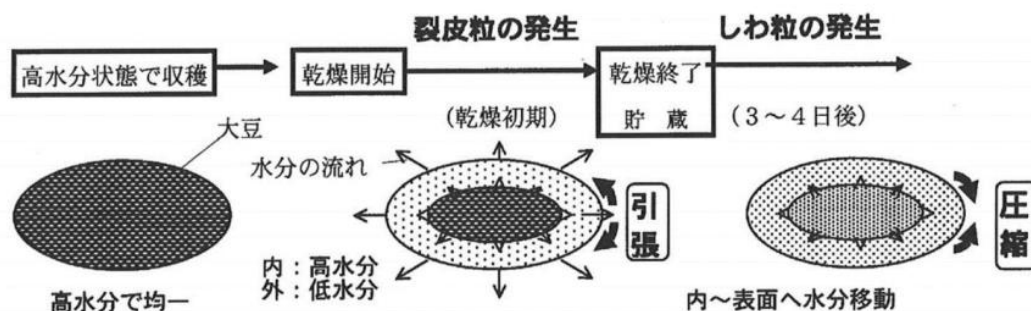


図3 大豆乾燥における被害粒発生機構

※1 『みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針』p.32 より抜粋

乾燥時の注意点

- ・循環式乾燥機等火力乾燥では、送風温度を 30℃以下とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
- ・やむを得ず子実水分 18%を超えるロットを乾燥させる場合は、熱風温度をさらに低め（常温または 25℃以下）に設定しましょう。
- ・送風温度は、晴天時には常温乾燥（無加温）とし、雨天・夜間は常温+5℃程度を目安としましょう。
- ・仕上げ子実水分は 13%程度（検査基準は 15.0%以下）にしましょう。

～今年産の大豆を振り返ってみましょう～

収穫した大豆の中に被害粒がないか確認してみましょう。以下のような被害粒が多い場合、次期作からの病害虫防除を徹底しましょう。



写真3



写真4



写真5



写真6

写真3：紫斑病による「紫斑粒」

写真4：マメシンクイガによる「くちかけ粒」

写真5：フタスジヒメハムシによる「黒斑粒」

写真6：フタスジヒメハムシによる「腐敗粒」

※病害虫の防除時期や防除体系については「令和5年産大崎地域の大豆作技術情報第4号」をご参照ください。

東北地方 1 か月予報

(10月14日から11月13日までの天候見通し)

令和5年10月12日

仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	20	70
【降水量】	東北太平洋側	30	40	30
【日照時間】	東北太平洋側	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	10	30	60
3～4 週目	東北地方	20	30	50

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中(9月1日～11月30日)◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう！農業機械の転落・防止対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

